

MissionForest: 組織内外における協働支援のための タスク構造化システムの試作

後藤 誉昌[†] 白松 俊[†]

名古屋工業大学 工学部情報工学科[†]

1. はじめに

本研究ではこれまで、公益活動やシビックテックといった分野を対象とし、公共圏で目標を共有する Web システム「ゴオルシェア」[1]を開発・運営してきた。従来のゴオルシェアは組織横断的な協働を想定しており、目標データを全てオープンデータ化していた。しかし、組織内での日常的な活動は公開に適さないものも多いため、日常的には使いにくいという問題点があった。また、目標を階層化したツリー構造の入力操作が直感的でないという問題点もあった。そこで本稿で試作する新システム「MissionForest」では、(1)組織内部の日常的な活動を非公開な目標ツリーとして記録し、(2)外部発表後にツリー構造の一部をオープンデータ化可能にする。さらに、(3)目標ツリーを直感的な操作で作成・編集可能にする。

本システムでは、まずはケーススタディとして大学の研究室を対象とする。学生の研究目標を公開・共有することによって、教員による進捗の把握や、学生の自律性向上、学生同士の協働の促進を目的としている。また作成されたデータは後から一般公開できるので、外部組織との連携やアウトリーチ活動にも活用でき、これまでのゴオルシェアが対象とするような公益活動にも研究シーズを活用できる可能性がある。初期段階では本研究室内で試用し、有用性を検証する。

組織を超えた協働プロジェクトを円滑に進行させるには、(1)プロジェクト全体のタスクを俯瞰できる、(2)後から参加した人でも議論に参加しやすいような議事録作り、(3)誰が何をどこまでやったのかが把握できる進捗管理、という3つの要件を満たす必要がある。このような要件を満たすシステムは”プロジェクト管理システム”と呼ばれ、有償無償問わず数多く存在する。

上記のような従来型のプロジェクト管理シス

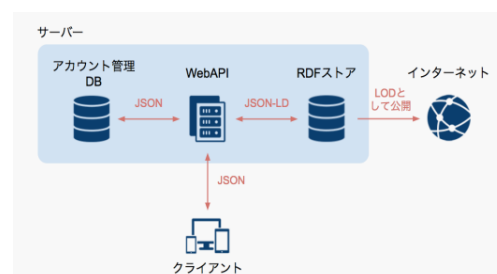


図1: システム構成図

テムの機能に加え、プロジェクトの成果を公開することで、2次活用や外部組織との連携に役立てられることができれば、新たな協働を生む可能性がある。そこで新システムMissionForestの試作により、新たな協働を生み、協働を支援できるようなプロジェクト管理システムを目指す。プロジェクトの目標階層は、ゴオルシェアを踏襲してLinked Dataとして構造化した上で、ゴオルシェアよりも詳細に公開／非公開を制御できる機構を目指す。図1に、MissionForestのシステム構成を示す。

2. 直感的なツリー編集インターフェース

試作するシステムでは、プロジェクトを「ミッション」と呼ぶ。ユーザーは任意にミッションを作成することができ、ミッションごとに直感的なGUIでタスクツリーを構築することができる。そのインターフェースを図2に示す。

タスクには進捗状況の指定、タグの指定、コ



図2: タスクツリー編集画面